

(5) 東海



東海地域では、景気は力強く回復している。

- ・ 鉱工業生産は高水準で推移している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

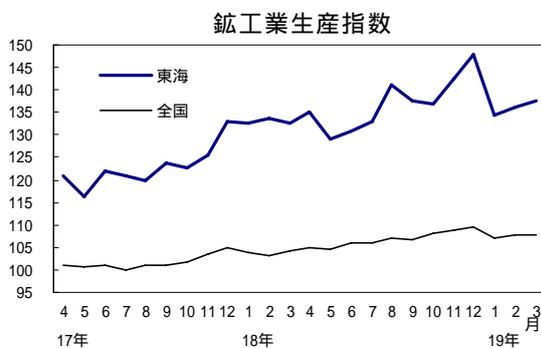
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 19 年 2 月）	今回（平成 19 年 5 月）	
住宅建設	増加	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は高水準で推移している。

輸送機械は、完成車の国内向けは引き続き伸び悩みがみられるものの、海外向けが北米向けを中心に好調だったことや、自動車部品の輸出が好調だったことなどから、高水準で推移している。一般機械は、金属工作機械が国内需要は一般機械向けを中心に、海外需要は欧米向けを中心に好調だったことから、高水準で推移している。電気機械は、9 四半期ぶりの減少となったものの、内燃機関電装品や電動機が自動車関連向けを中心に堅調に推移し、制御機器も、半導体関連向けを中心に好調だったことから、高水準で推移している。窯業・土石は、ファインセラミックスは自動車向けを中心に堅調だったものの、食器・陶磁器、タイルなどが引き続き低調に推移したため、減少している。化学は、自動車関連向けが好調なことなどから、高水準で推移している。電子部品・デバイス、半導体集積回路の単価下落などにより、3 四半期ぶりに減少したものの、液晶素子はテレビ、携帯電話など情報通信機器向けに好調だったことなどから、高水準で推移している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成 19 年 3 月の東海は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

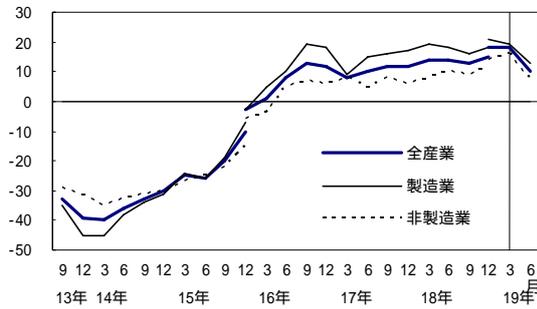
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
輸送機械	33.9	7.7	2.7	1.6	30.8
一般機械	11.3	2.5	5.7	4.2	7.4
電気機械	7.3	3.2	5.8	8.0	0.3
窯業・土石	6.1	0.2	3.7	4.1	2.3
化学	5.4	1.0	0.5	1.4	1.5
鉱工業	100.0	3.9	4.6	1.6	4.1

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 5 業種。
2. 1~3 月期は速報値。
3. 生産指数は東海。出荷、在庫指数は中部。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が縮小している。

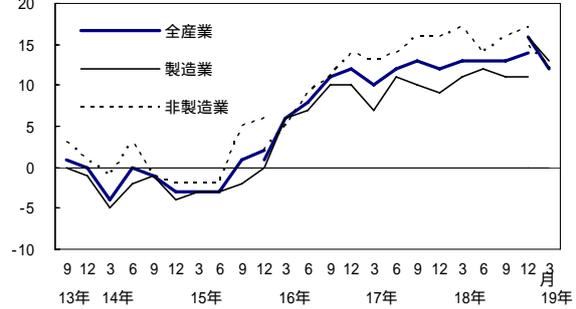
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



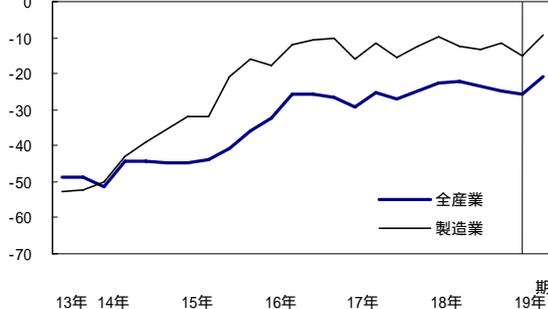
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年6月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「米国市場は相変わらず低調であり、引き合いも受注も少ない。欧州、アジアの動きは活発であるが、米国の不調を補うほどの活況さはない(一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

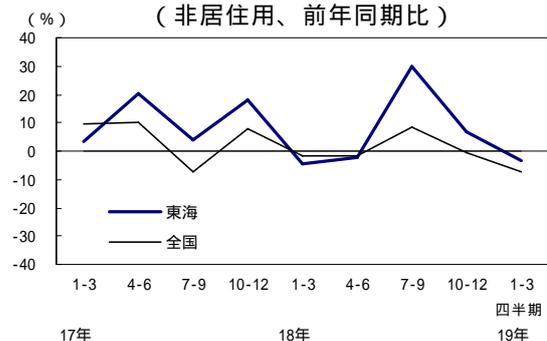
(3) 18年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績見込み	19年度計画
全産業	14.5 [14.5]	4.2
製造業	6.1 [7.2]	0.5
非製造業	33.1 [26.0]	12.6

(備考)[]は前回(12月)調査結果。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

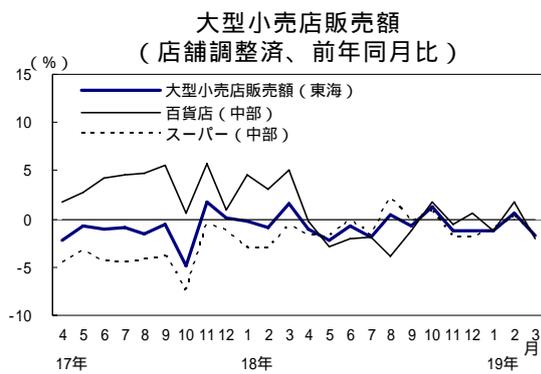
百貨店は、1月は、初売りや身の回り品が好調だったものの、暖冬の影響で冬物衣料品が伸び悩んだことなどから、前年を下回った。2月は、衣料品は伸び悩んだものの、バレンタイン商戦や、婦人靴やバッグなどの身の回り品が好調だったことなどから、前年を上回った。3月は、天候不順の影響で、紳士服、婦人服などの季節商材が振るわなかったことや、大型商業施設開業の影響などから、前年を下回った。なお、名古屋市内主要5百貨店の4月の売上高は、前年同月比で0.3%減となっている。
スーパーは、暖冬の影響により冬物衣料や鍋物用食材など、全般的に不調だったため、全体でも前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

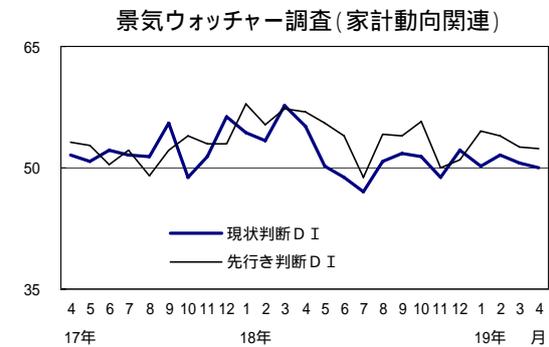
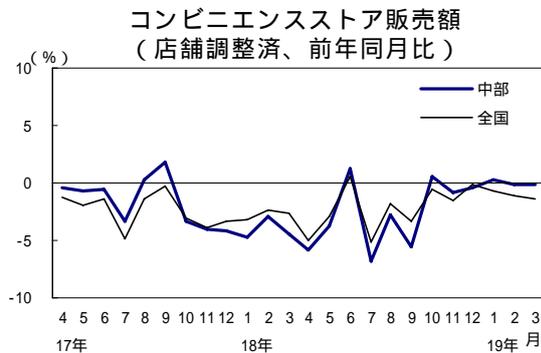
「来客数は前年並みである。各店舗の経営者や店長から話を聞くと、短期的な景気の先行きには期待も大きな不安もない。しかし長期的には、公的負担の増加に伴う収益への圧迫を心配している(コンビニ)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(前年同期比、%)

	18年4-6月	7-9月	10-12月	19年1-3月
大型小売店	1.4	0.8	0.5	0.9
百貨店	1.7	2.2	0.6	0.7
スーパー	1.2	0.1	1.1	0.8
コンビニ	2.8	5.1	0.2	0.0
景気ウォッチャー	51.4	49.9	50.8	50.8



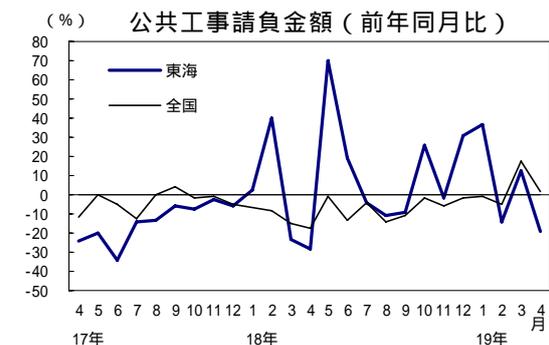
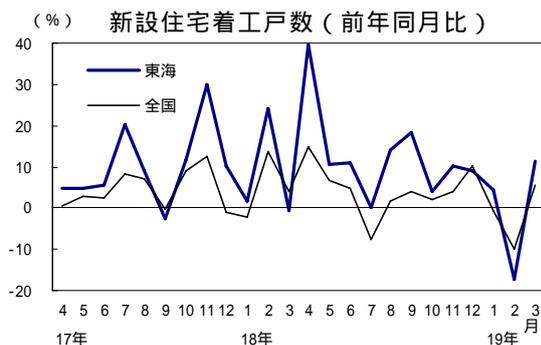
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
百貨店、スーパー、コンビニは中部地区。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

持家、分譲は前年を上回ったものの、貸家が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

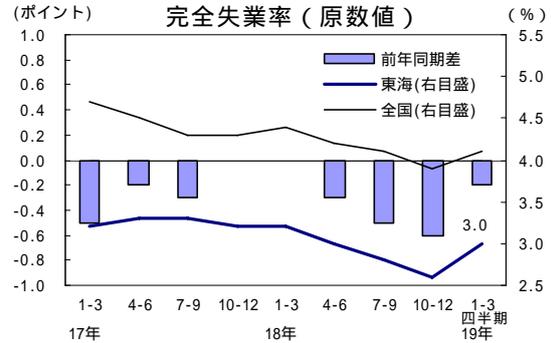
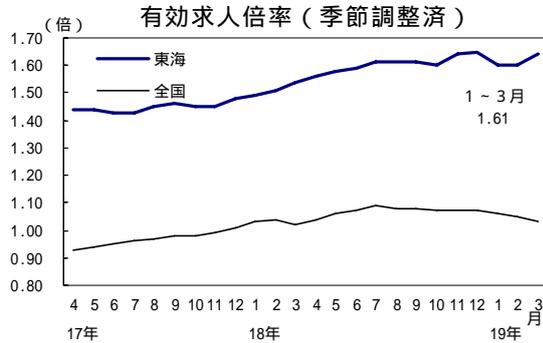


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

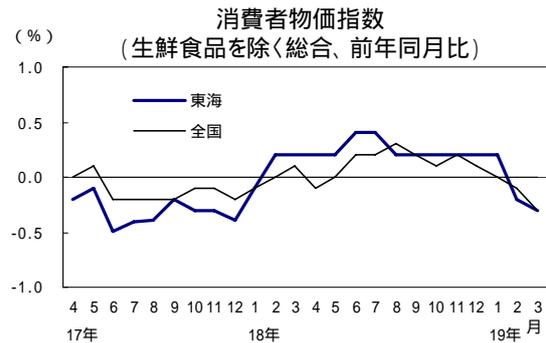
「就職者数はやや増加しているものの、季節要因を除くと、求人数と共に安定した動きが続いている（職業安定所）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加しているが、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	18年4-6月	7-9月	10-12月	19年1-3月	19年4月
倒産件数	300	288	323	319	84
（前年比）	12.8	4.3	5.6	3.2	28.2
負債総額	1,392	1,023	939	886	194
（前年比）	16.0	21.8	36.1	11.5	19.4



景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・目的の商品だけでなく、目的以外の商品を衝動買いする客が増えている。家計にゆとりが出てきている（一般小売店〔生花〕）

<先行き>

・鉄鋼メーカーが再度30%近い値上げを実施するなど、素材単価は継続的に値上がりしている。得意先に価格転嫁しないと、事業を継続できない。得意先全体から了解を得られるまで、停滞ないし悪くなる方向に進む（電気機械器具製造業）

景気ウォッチャー調査（合計）

